

第3回 荒川区男女共同参画社会推進区民会議 会議録

日 時	令和8年1月9日（金）15:00～16:30
会 場	区役所4階 庁議室
出 席 者	権丈会長、小林副会長、椎葉委員、近藤委員、榎委員、松熊委員、村山委員、上羽委員、中田委員、小堀委員、古瀬委員

議事要旨

1 会議の開会

- ◆ 事務局より開会あいさつ

2 議題1

第2回荒川区男女共同参画社会推進区民会議以降の計画案の変更点について

◆変更点について事務局より説明

◇資料1に基づき説明

◆質疑応答・意見等

委 員)最近、人権に関するイベントを実施した際、一般の方の問い合わせが増えていることを感じた。パブリックコメント No.8の「学校では男女平等が進んでいるが、社会に出ると男女不平等を実感する」という意見は、社会的に人権意識が高まったからこそ出てきた意見であり、10 年前とは明らかに反応が違うと感じている。

事務局)区議会の総務企画委員会でも、同様の意見があった。人権意識や男女共同参画意識が高まることにより、現在、課題が顕在化し、相談件数も増えてきているものと認識している。

会 長)計画の内容について、前回よりもコラムや用語解説、参考資料等が充実しており、読んで学べる計画になっていると感じる。

事務局)例えば、30 ページのコラムでジェンダーギャップ指数を取り上げている。日本は 148 か国中 118 位という衝撃的な数値となっているが、計画の内容だけでなく、関連する情報も補足できるよう工夫している。61 ページのコラムではプレコンセプションケアを取り上げているが、これは用語解説を兼ねたコラムとしており、将来の妊娠や出産を考えるだけでなく今を健やかに過ごすための自分メンテナンスとして紹介している。74 ページ以降は、参考資料として用語解説等を示している。

会 長)計画が完成した後は印刷等をして周知するのか。

事務局)計画完成後、印刷して区の庁舎等で閲覧できるようにするほか、区ホームページにも掲載する予定である。

委 員)30 ページのジェンダーギャップ指数についてであるが、男女共同参画に関す

る他の指標もあるかと思うが、最も一般的な指標として取り上げたのか。

事務局)ジェンダーギャップ指数は、男女共同参画の分野でもよく引用されるものであり、国際的にも評価されており、インパクトがある指標であるため採用した。

委員)参考資料の 88 ページ以降に荒川区政世論調査結果が掲載されているが、経年変化の情報もあるとよいと感じた。あまり変化していないのか。

会長)長期で見ると変化している部分もあると思う。絞り込みが難しいと思うが、平等意識などはあってもよいかと思う。

事務局)本計画上に指標として設定しているものについては前計画からの経年変化の内容を掲載しているが、世論調査の各項目の経年をどこまで掲載すべきかについては検討する。

委員)先ほどの委員の意見でもあった 115 ページの世論調査結果「人権意識」について、社会的な人権意識の高まりによる結果という見方もできると思った。

事務局)実際の分析は難しいが、事実として、世論調査結果では人権意識が守られていないと感じる人の割合が増えている状況にある。インターネット上の誹謗中傷など、特定の方を排除するような動きについて関心が高まっていることが要因ではないかと考えている。

会長)ジェンダーギャップ指数は、他に複数の指標がある中でも最もインパクトが強いため、代表的に取り上げられているものだと思う。日本では特に政治分野が数値を押し下げている。アイスランドでは女性がトップの期間が長い状況もあり、今後、日本も変わっていくことを期待している。

委員)コラムは非常に興味深く、特にジェンダーギャップ指数のコラムを通じて、アイスランドが世界一となっている背景について考えるきっかけとなった。政治分野だけでなく、意識のあり方や社会の寛容さといった点においても、荒川区が学べる点が多いと感じた。アイスランドは人口規模も大きくなく、荒川区と比較しても決して遠い存在ではなく、「寛容さ」という視点は、町会活動や社会教育など、荒川区の地域特性にも親和性が高い概念であると考える。

また、日本国内の事例として鯖江市の男女共同参画に関する計画を参照すると、荒川区の基本目標Ⅲに相当する部分が比較的シンプルに整理されている。一般区民にとって、「家庭・職場・地域」といった生活の場面ごとに整理することで、どこで何に取り組むのかがより分かりやすくなるのではないかと考える。さらに、全施策を並列に示すのではなく、重点目標を明確にすることで、特に社会に出た後に格差やギャップを感じやすい「職場」への支援など、注力すべき領域がより浮き彫りになると感じた。

事務局)すべての基本目標はいずれも重要であるが、基本目標Ⅲは区が主体となって実施する施策が多く、特に重要な位置づけであると認識している。アイスラン

ドの事例に示される寛容な地域社会の形成という視点は、荒川区の地域特性とも親和性が高く、町会活動や社会教育など、地域のつながりを生かした取組として根づきやすいと考えている。区の基本的な考え方としても、地域の様々な主体をつなぎ、多様な人々が安心して暮らせる寛容な社会を築いていくことを政策として掲げており、本計画もその考え方に基づいて策定している。

また、鰐江市との比較において、荒川区の基本目標Ⅲの方がボリュームの大きい構成となっている点については、施策数や区民規模の違いによるものであり、区としても家庭・職場・地域といった視点で整理することを意識してきたが、カテゴリー分けが難しい側面もあった。委員からの指摘のとおり、分かりやすさの観点は今後の計画の推進や周知の中でも重要であり、いただいた意見を踏まえながら、重点となる施策を意識した形で計画を推進していきたいと考えている。

委 員)多岐にわたる施策が示されている中で、荒川区として特に重点的に取り組む部分がより明確に見える形になるとよいと感じた。荒川区といえばこの施策であるという象徴的な柱が示されることで、区の姿勢が区民にも分かりやすく伝わるのではないかと考える。特に男女共同参画の分野においては、「これが荒川区の重点である」と言える施策が際立って見えることが重要である。

指標の観点から見ると、基本目標Ⅲや基本目標Ⅳにおいて、達成度が50%を下回る項目が見られることから、こうした分野を重点目標として位置づける考え方もある。また、命や安全を守る施策を明確に打ち出し、そこを重点とする整理も考えられる。四つの基本目標を並列に扱うのではなく、特に注力する分野を明確にし、その分野に集中的に取り組むことで成果を可視化し、次の3年、5年と段階的に重点を移す推進方法も有効ではないかと考える。

事務局)計画上、特定の基本目標を「最重点」と明確に位置づけることは、すべての施策が重要であるという性格上、難しい側面がある。しかし、委員からのご指摘のとおり、実質的には具体的な施策がある基本目標Ⅲが中心的な位置を占めているとの認識を持っている。

基本目標Ⅰは、人権意識や男女の平等意識といった「意識の変化」を目指すものであり、各種施策の積み重ねの結果として到達すべき最終的なアウトカムに位置づけられると考えている。その意味では、基本目標Ⅰは最終的な到達点であり、直接的な施策展開の対象としては限定的な側面もある。

一方で、基本目標Ⅲは、区が主体となって実施できる施策が多く、日常生活や地域、職場といった具体的な場面において、実効性のある取組を展開できる領域であることから、全体を通じた推進の中心になる部分であると認識している。区として実際に取り組める施策の規模や範囲を考慮すると、基本目標Ⅲ

が最も現実的かつ重要な位置を占めていると考えている。

会長)今後、計画の内容を区民の皆さんに伝えていく過程の中で、その時々の状況に応じて重点的に打ち出すべき部分も変わってくるものと考える。その際には、改めて重点の置き方について検討し、強調すべき施策を整理していくことが望ましいと考える。

いずれの施策も重要であるが、今回の第6次計画は、当初広がっていた内容を一定程度整理し、方向性を明確にした上で取りまとめたものである。今後は、本計画を着実に実行に移し、区民への周知を図りながら、さらなる充実と推進につなげていくことを期待している。

会長)これまでにいただいたご意見等を参考に、今後さらに修正や検討すべき点があれば、その内容を十分考慮した上で、最終的な計画の取りまとめをお願いしたい。

会長)第6次荒川区男女共同参画社会推進計画の策定に当たり、本日が最後の区民会議となることから、委員の皆様に、区民会議に参加した感想や、今後の計画推進に当たって取り組むべき点について、一言ずつ意見を頂戴したい。

事務局)本日欠席の委員より事前にご意見を伺っているため、ここで紹介させていただきたい。欠席委員から、第6次計画案については、出席委員の皆様の尽力により時代に即した内容となっていると評価するとのご意見があった。

会長)それでは、本日ご出席の委員の方から順番にご意見をいただきたい。

委員)男女共同参画社会推進区民会議は、連合が掲げる働くことを軸とする安心社会の実現に欠かせない重要な取組であると感じた。雇用や賃金、昇進・配置などにおける性別による不合理な格差を是正するとともに、育児や介護と仕事を両立できる環境整備を進めることができ、すべての働く者の安心と尊厳を守ることにつながると考える。

労働現場の声を政策に反映できるよう、男女共同参画を実効性のある取組として前進させていきたい。また、昨今の労働人口の減少に歯止めをかける上でも重要な取組であると考えており、今後とも労働者の声を区民会議に届けていきたい。

委員)本計画は大変意義のある取組であると感じた。現在、経営者にとって最大の課題は人材確保であり、多くの企業が人手不足に直面している状況である。これまで男性中心で採用してきた企業においても、女性を積極的に採用していく時代となっており、その意味でも男女共同参画の考え方を改めて認識し、採用活動に反映していくことが重要であると考える。

商工会議所としても、こうした取組に向けた働きかけに協力していきたいと考え、企業からの相談に対しても、引き続き丁寧にフォローしていきたい。今後

とも、男女共同参画の推進に向けて連携していきたいと考えている。

委 員)本会議は大変学びの多いものであり、自身にとって知らないことも多く、社会を知る良い機会となったと感じている。誰もが自分らしく生きることができる社会は非常に素晴らしい状態であり、男女に限らず、すべての人にとって望ましい姿であると考える。

このような社会が実現すれば、子どもたちにとっても、荒川区に住み続けたいと思える地域になるのではないかと感じた。実際に子どもと話した際にも、荒川区が好きであり、将来も戻ってきたいという言葉があり、改めて地域への愛着の大切さを実感した。

このような会議を開催し、区民の声を反映しようとしている荒川区に心から感謝しており、今後ともこの取組が継続していくことを期待している。

委 員)小・中学校において人権教室を実施しているが、その中で最も大切にしているのは、互いの立場を考え、尊重する姿勢を育むことである。また、一人ひとりの違いを認め合い、相手の命、自分の命の大切さを理解することを伝えている。こうした取組を通じて、今後も多様性を尊重する意識がさらに広がり、より良い社会の実現につながっていくことを期待している。

委 員)荒川区の国際交流委員会にも所属しており、日本語を外国籍の方に教えるボランティアの養成や活動支援に関わっている。近年、国際情勢等を背景に、特定の外国人に対する誹謗中傷が見られる場面もあるが、荒川区でこうした活動に関わっている人々は、一時的な風潮に流されることなく、冷静かつ寛容に対応していると感じている。荒川区は、こうした多様性を受け止めることを得意とする地域であり、人権意識は急激に変化するものではないものの、着実に積み重ねられてきていると考える。その結果、地域の中で実質的に根付いた中身のある人権が育ってきているのではないかと感じている。

委 員)特に印象に残ったのは、LGBTQをはじめ、社会の中で様々な困難を抱える人々に対する理解が、以前よりも着実に進んできている点である。若い世代の中でも、LGBTQという言葉や考え方方が広く知られるようになっており、こうした情報発信を今後も継続していくことが重要であると考える。

また、インターネットについては課題やリスクも多い一方で、問題の発見や課題提起のスピードが速く、解決策を募りやすいという側面もあると感じている。区としても、こうした特性を生かしながら、適切に活用していくことが望ましいと考える。

誰もがそれぞれの特性を生かし、自分らしく活躍できる機会づくりを目指していくことが重要であり、今後も積極的に関わっていきたいと考えている。

委 員)ひとり親世帯や生活困窮世帯への支援に携わる中で、物価高の影響により支

援ニーズが高まっていることを実感している。月1回実施している支援事業では募集がすぐに埋まる状況であり、支援の必要性は依然として大きい。さらに、父子世帯支援に取り組む中で、対象世帯の把握が難しく、支援につながりにくい現状も課題であると感じている。今後は、関係機関と連携しながら、支援体制の充実に取り組んでいきたい。

会長)本日並びにこれまでの区民会議において、委員の皆様には活発かつ建設的な議論をいただき、心より感謝申し上げる。区民会議、パブリックコメント、各種検討を踏まえ、本計画は非常に実効性の高い、質の高い内容となったものと確信している。今後は、最終的な調整を行い、計画を確定させていくこととなるが、計画を作ること自体が目的ではなく、これから実行していくことが何より重要である。広く区民に周知するとともに、定期的な進捗管理を行いながら、着実な推進に努めていきたいと考えている。
引き続き、委員の皆様のご協力を賜りながら、本計画の実現に向けて取り組んでいきたい。

3 議題2 今後のスケジュール等について

事務局)今後、計画案について、庁内での調整と議会の所管委員会への報告を行い、計画策定は令和8年3月を予定している。

4 閉会